

千川中学校だより

1月号 平成30年1月16日(火)

豊島区教育委員会研究推進校研究発表会を終えて

千川中学校長 紅床 直也

平成30年(2018年)が始まりました。冬季休業中、北国からは大雪や吹雪のニュースも聞こえましたが、東京は暖かで穏やかな新春を迎えることができました。とは言え、3学年の生徒たちは受験を間近に控えて最後の頑張りに懸命だったと思います。是非、そうした努力が報われることを心から願っています。

先週1月12日(金)に、本校が2年間にわたって取り組んできた「豊島区教育委員会研究推進校」のまとめの発表会を行いました。当日は、豊島区教育委員会の皆さまをはじめ多くの来賓の方々をお迎えして、全学年・全学級の研究授業の公開と研究発表、更には明治学院大学心理学部教育発達学科教授中村敦雄先生に講演をしていただきました。

昨年度末に告示された新学習指導要領では、従来の「何を学ぶか」「どのように学ぶか」だけではなく、「何ができるようになるか」という視点の重要性が強調されています。この3つの柱を備えた教育のためには、どの教科のどの授業でも、新しく理解できた知識・身に付けた技術を自覚し、学習意欲を持って自ら設定した次の課題に挑んでいける仕掛けの創造が不可欠となります。本校では、授業展開の指針として「千川中スタンダード」を掲げ、生徒の学ぶ意欲の向上を図り、その反復により学力の定着・向上につなげる研究を目指しました。研究テーマの副題に掲げた、「主体的・対話的で深い学び」の実現は、本研究の目標であるとともに、通過点でもあります。本校は、教育都市としまが掲げる理想の実現に向けて、今後とも研究に邁進していきます。

さて、この発表会を開催するにあたり、区内区外のあらゆる校種の先生方に喜んで持ち帰っていただけるものは何なのかを全教職員で考えました。その結果、奏功した成果だけを並べるのでは無く、敢えて未だ為し得ていない課題を明らかにすると共に、何故それが2年間の研究と実践で克服できなかったのか、また、それを解決するための次なる仮説が提示できればと考えました。課題として上がってきた「振り返り活動の充実」「言葉かけの重要性」「ICTの更なる活用」は、来年度以降、本校の授業改革を一層進める上でのより焦点化されたキーワードとなります。

A I時代を迎えるにあたり広い視野で教育を考えると、人工知能に振り回されることなく、それを効果的に利用できる人材の育成が急務となっています。今後は、どんなに科学技術が進歩したとしても揺るがない人間力が必要となります。本校では「主体的・対話的で深い学び」「千川中スタンダード」を極限まで追求することによって、どんな環境においても自ら課題を発見し解決していける、地域やグローバル社会に貢献できる人材を生み出していきたいと考えています。

私どもが2年にわたるこの研究を続ける過程で常に自問してきたのは、誰のための研究なのかという一点です。検証のための校内研究授業等を行う都度、保護者の皆さまには通知文を発信し、ご理解を求めながらの研究となりましたが、方向性を間違えると、教員の自己満足に陥って終わってしまいます。研究の目的は「生徒をより良く変える」という一点に尽きます。その間、複数回にわたり継続的に生徒への授業アンケートと教員アンケートを取りながら、分析を重ねてきました。その結果、ほとんどの教科で学習意欲の向上が見られ、生徒自身が授業を創っていくというスタイルが定着しました。

おりしも、学校は学校評価・年度末反省・来年度教育課程編成の時期となります。先般保護者の方々



千川中スタンダード

課題設定 その時間の目標や課題を理解する。

解決活動 自力解決→自分の考えや意見を積極的に発表する。

集団解決→友達の意見を聞いたり自分の意見を伝えたりしながらみんなで課題を解決する。

振り返り 勉強したことを確認して、自分の中で整理する。

※豊島区中学校連合作品展が1月27日（土）～29日（月）に、としまセンタースクエア（豊島区役所本庁舎1階）で開催されます。区内中学生の書写、美術、技術・家庭の作品のうち優秀なものを出品します。本校生徒の作品も展示されますので、お時間のある方はお出かけください。

生徒の活躍

○豊島区中学校読書感想文コンクール ＜入選＞ 1年 ＊＊＊＊＊ 2年 ＊＊＊＊＊

<佳作> 1年 ****、**** 2年 ****、****

3年 * * * *、* * * *、* * * *

○男子バスケットボール部 第128回冬のHOTCUP大会 優勝

優秀選手 * * * * (2年)、* * * * (2年)

○バドミントン部 豊島区ジュニア中学生大会シングルス部 **** (1年) 第3位